

令和元年度 北海道立生涯学習推進センター研修事業 課題対応型学習活性化セミナー（道南会場）事業報告

I 事業の概要

研修テーマ 地域づくりの担い手育成に向けた行政と住民の連携・協働
～ 地域に対する住民の思いを引き出す工夫や地域性を生かした取組の展開 ～

- 1 趣 旨 各地域の課題解決に向け、講演や協議を通して住民の主体的な行動を促すための方策について考える。
- 2 主 催 北海道立生涯学習推進センター
檜山管内社会教育主事会
- 3 期 日 令和元年 11 月 20 日（水）
- 4 会 場 上ノ国町総合福祉センター ジョイ・じょぐら
- 5 参 加 対 象 市町村及び市町村教育委員会職員・各種審議会委員（社会教育委員、生涯学習審議会委員等）・社会教育関係団体職員・生涯学習関連施設職員・民間団体（NPO、企業等）関係者・教員 等
- 6 参 加 状 況 20 名
（市町村教育委員会職員 14 名、道立青少年体験活動支援施設職員 1 名、学校関係者 1 名、社会教育委員 4 名）

7 日 程		9:45	10:00	12:00	13:00	15:30
受付	開会	講 演		昼食	協 議	閉会

8 活動の概要

- (1) 講演「次の世代へ地域の魅力を伝える～苫前町における『地方創生塾』の取組や地域・大学連携による取組を中心に～」

【講師】北海学園大学教授 西村 宣彦 氏

【内容】 日本経済は 20 年以上にわたる長期デフレに沈み、公的債務の膨張や人口減少と少子化・高齢化・人手不足など、多くの課題に直面している。

こうした中、これまで講師が携わってきた夕張市における再生計画見直しに係る取組や、苫前町における地方創生塾、全道各地での企業を巻き込んだ地域・大学連携の取組から、ひとづくりの重要性について話をした。

また、住民と行政が地域の未来に対する不安や危機感、将来像を共有し、比較的無理なくやれることから取り組んでいくことにより、ひとづくりが進んでいくという考えを話した。



(2) 協議

【進行】 北海道立生涯学習推進センター社会教育主事 中 西 めぐみ
檜山教育局教育支援課社会教育指導班主査 齊 藤 伸 一

【内容】 はじめに、講演を聞いて感じたことや、住民が地域の特徴について考える機会の程度等を全体で共有。その後、人、文化・歴史、自然・風景、その他について地域の「あるもの探し」をし、活用の可能性について協議をした。参加者からは、「南西沖地震の経験や教訓から体験学習型の社会教育事業を組み立ててはどうか」といった意見や、「このように地域の魅力をみんなで考え、まちづくりに生かす取組を引き続き考えていきたい」といった意見が出された。



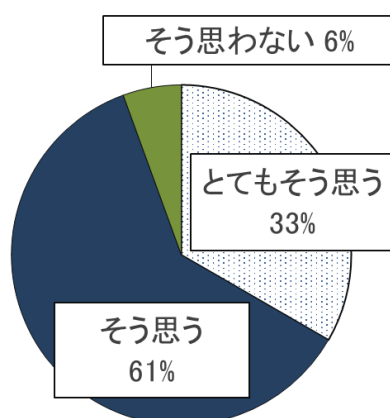
Ⅱ 事業の満足度

1 本講座参加者数 20 名

2 アンケート対象者数 18 名

3 全体をとおして

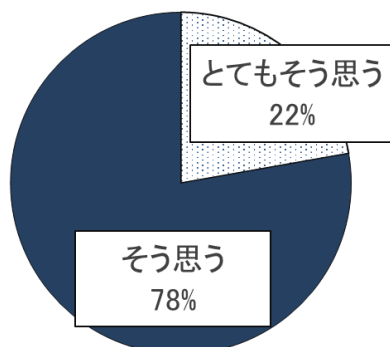
(1) 本セミナーは、地域の良さを生かした取組の展開について考える機会となりましたか。



【参加者の声】

- 地域づくりを進めていく上で悩んでいたことや難しいと思っていたことへのヒントをもらった。
- 様々な視点から取組を考えていくことができるとわかった。
- 話が多岐にわたり、まとめづらかった。

(2) 本セミナーの内容は、今後の事業改善や取組の検討へつながると思いますか。

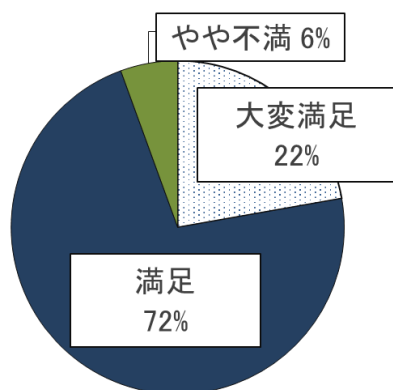


【参加者の声】

- 出来ることから取り組んでいこうと思う。実践していけそうと思った。
- マンネリになっている事業に新たな視点を加えることで、より効果的なものにしていけそうと思った。

4 プログラムの内容について

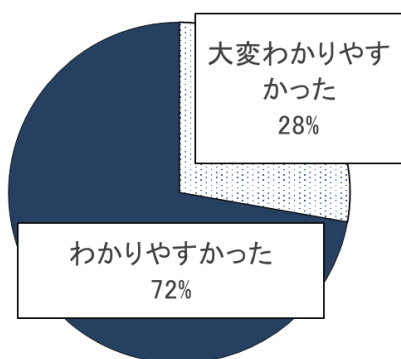
(1) プログラムの内容はいかがでしたか。



【参加者の声】

- 他町との交流もあり、楽しく学ぶことができた。
- 勉強になること、参考になることが多いプログラムだった。
- 地域の活性と学校の関わりについて引き続き探っていきたいと思った。

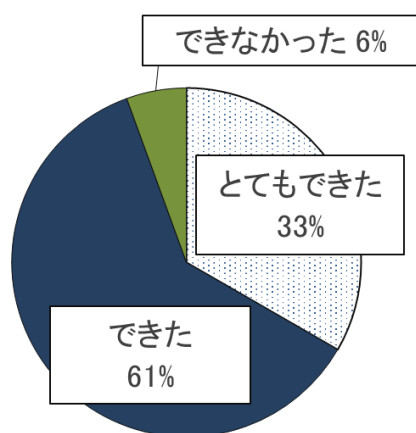
(2) 講師の説明はわかりやすかったですか。



【参加者の声】

- 実践に裏付けされた内容でとても勉強になった。
- コーディネートの大切さを再確認した。
- 難しい用語がなく、とても理解しやすい内容だった。

(3) 「協議」では、地域の良さを生かすための方策について考えることができましたか。



【参加者の声】

- 今後の事業計画のヒントがもらえた。
- 自分が住んでいる町の魅力を再確認できる良い機会となった。
- 自分の地域だけでなく、他の地域のことも考えることができる内容だった。